

# 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト



環境省森里川海プロジェクトチーム 主査 奥田直久  
(自然環境局自然環境計画課長)

## <森里川海のつながりの喪失>

私たちの暮らしは、森里川海の恵みに支えられている。森里川海は、分を超えない範囲で利用し、適切に手を入れれば、持続的に恵みを与えてくれる。

しかし今、過度の開発や利用、管理の不足などにより、森里川海のとつながりが分断されたり、質が劣化し、その恵みが損なわれつつある。

例えば、日本の森。森林管理が十分に行われない人工林では貯水機能の低下により土砂崩れが起こりやすく、生物多様性が著しく低下した沈黙の森となっている。また、老齢化した人工林では二酸化炭素の吸収機能が低下している。

川では、河川沿いの湿地や林の多くが農地や宅地へと開発され、河川構造物による河川の連続性の損失や取水などにより、生物の生息環境を悪化させている。また、子どもたちと身近な生き物との接点もなくしてしまっている。

## <「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト>

このような課題に対し、2014年12月に環境省が事務局となって社会の幅広い主体の参加を得る「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトを立ち上げ、有識者を交えた勉強会や全国リレーフォーラムを実施してきた。リレーフォーラムは全国約50箇所で開催し、延べ4,000人以上の参加をいただいた。その過程で頂いた多くの意見を踏まえ、環境省が事務局となって取りまとめたのが『森里川海をつなげ、支えるために（提言）』である。（図1参照）

### 森里川海をつなぎ、支えていくために（提言）

平成28年9月

#### 前文ープロジェクトの背景・目標等

**現状と課題**

森里川海からの豊かな恵みに支えられた暮らし  
地域の自然に育まれた社会・文化・信仰・自然観

人口減少、過疎化、高齢化、過剰開発、気候変動

つながりの喪失

近年、様々な要因により、我が国の自然環境は荒廃し、国民の暮らしにも影響

**（例）**

- 資源の枯渇
- ふれあい機会の喪失
- 森林・里地里山の荒廃
- 鳥獣被害の深刻化
- 災害の甚大化
- 自然と共生した暮らしと日本の自然観の喪失

#### 森里川海で拓く成熟した社会づくり

- 再生可能エネルギーの活用で地域経済を回す
- 個性ある風土づくりで交流人口の増加を図る
- 安心・安全な衣食住を提供する
- 少量多品種、高付加価値化の一次産品づくりへ
- 生態系を活用して防災・減災を図る

#### 目標

森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す  
自然が本来もつ力を引き出すことで森里川海と恵みが循環する社会

一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくる  
森里川海の恵みの持続的利用により、人と自然、人と人が共生する社会

#### 基本原則

- 人口減少・高齢化が進むことを逆にとる
- 地方創生に貢献する
- 地域だけでなく国全体で支える
- 縦割りを解消、関係者間、地域間の一層の連携
- 目指す姿からバックカスティングアプローチをとる
- 別の目的のための取組にも配慮

#### 具体的な取組アイデア

##### ①地域の草の根の取組

- 8つのプログラム
- 森林のメタボ解消、健全化プログラム
- 生態系を活用したしなやかな災害対策プログラム
- 江戸前など地域産食材再生にも貢献する豊かな水循環形成プログラム
- トキやコウノトリなどが舞う国土づくりプログラム
- 美しい日本の風景再生プログラム
- 森里川海からの産業創造プログラム
- シカなどの鳥獣や外来生物から国土・国民生活を守るプログラム
- 自然資本を活かした健康で豊かな社会づくりプログラム

##### ②実現に向けた仕組み

##### ③ライフスタイルの変革

自然の循環を基盤とし、その恵みを自立的かつ持続的に享受できるライフスタイルの実現

- 3つのプログラム
- 森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム
- 森里川海とつながるライフスタイルへの変革プログラム
- 森里川海の恵みの見える化プログラム

低炭素・資源循環・自然共生が同時に達成される真に持続可能な循環共生型の地域社会（環境・生命文明社会）を創造

#### 今後の進め方

- 資金を確保する仕組みについては、2～3年程度かけてモデル事例をつくる
- 森里川海を支えることの必要性について、できる限り早期に国民的な合意を得ることが不可欠
- ライフスタイルの変革に向けては、各主体においても積極的に実施

図1 「森里川海をつなぎ、支えていくために（提言）」の概要

本提言では、人口減少や少子高齢化の進行といった課題を踏まえ、地域ごとに存在する多様な資源がその地域で循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、各地域の特性に応じて地域が相互に補完し支えあう「地域循環共生圏」（図2参照）の構築を実現するため、森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す取組が継続する仕組みづくりと、一人一人が自然の恵みを意識し、それを支えて

いくためのライフスタイルの変革を目標に掲げている。

森里川海の恵みを活用することにより、再生可能エネルギーで地域経済が回り、個性ある風土によって交流人口が増加し、少量多品種で高付加価値化の一次産品が生産されるなど、地域経済の循環を生むことが期待される。また、これらの取組は、安心・安全な衣食住の提供や、生態系を活用した防災・減災につながるものである。同時に、自然とのふれあいの中で子どもを育て、家族や周囲の人々との絆を感じながら、心と体が満たされる暮らしが実感できる、真に豊かな社会をデザインしていくことを目指している。

### <プロジェクトに基づく環境省の取組>

プロジェクトを支える環境省では、平成 28 年度以降、この提言を踏まえ、地域における仕組みづくりを目指した実証事業と、ライフスタイルシフトを促すための普及啓発に取り組んでいる。

実証事業では、公募で選ばれた全国 10 か所において、3 年間（平成 28 ～ 30 年度）、流域など自然のまとまりで関係者が協働するためのプラットフォームづくり、取組を支える人材育成、経済・社会システムとリンクした資金確保の仕組みづくりなどに取り組んでいただいている。

資金や人材を投入するような従来型の生物多様性保全活動の推進ではなく、社会や経済に働き掛けることにより資源（資金や人材など）が地域で自立的に、持続可能な形で回っていく仕組みづくりを目指している点が、この実証事業の特徴である。

ライフスタイルシフトを促すための普及啓発としては、「食」「健康」「美」「音楽」といった自分ゴト化できる切り口で森里川海の恵みを考えるイベントを全国的に展開しているほか、子どもたちの自然体験の場づくりに向けた「森里川海大好き！読本（仮称）」の作成などに取り組んでいる。

さらに、食や健康、有機農業などの多様な分野で活躍している方々に「森里川海アンバサダー」に就任していただき、クリエイティブな情報発信で本プロジェクトをサポートしていただいている。

その他、ふるさと絵本づくりや、ホームページ、ツイッターによる情報発信もしており、こういった取組を推進することによって、子どもたちの笑顔あふれる自然体験の場づくりや、おしゃれで豊かなライフスタイルの実現を促し、森里川海の恵みへの意識・支える気持ちの醸成



図2 地域循環共生圏のイメージ

を図っていききたい。

### <国際的な目標の達成への貢献>

持続可能な開発のための目標（SDGs）、その SDGs の達成に向けた持続可能な開発のための教育（ESD）、SDGs と相補的な関係にある生物多様性条約に基づく戦略計画 2011-2020・愛知目標、さらに、低炭素から脱炭素への変革を示したパリ協定。現在、社会、経済、そして環境に関する様々な課題を統合的に解決する強い意思が国際的に共有されている。

このように、経済活動や社会構造の抜本的な転換が求められている今、自然環境をすべての人間活動の基盤・資本として位置付け、その自然資本（ストック）の維持・再生を図りつつ、そこから生み出される恵み（フロー）を活用する経済を目指すことが必要不可欠である。

森里川海プロジェクトはそのような経済・社会の実現を目指すものであり、これらの国際的な目標の実現に直接的に貢献するものであると言える。

### <終わりに>

森里川海が連なる流域圏を俯瞰し、上流域と下流域、農山漁村と都市がしっかりとつながり、多様な世代や組織がそれを支え合う。森里川海の循環体系が健全に機能する中で、環境・経済・社会の課題が統合的に解決し、低炭素・資源循環・自然共生社会が同時に実現するような、そんな地域づくり、国づくりを日本が率先して実現していくこと。このことが、日本の力を高め、国際的にも誇り得るものと考えている。

なお、プロジェクトの詳細については、ホームページ (<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/index.html>) をご覧いただきたい。